

「よみがえる中国歴代王朝展」 ～至宝が語る歴史ロマン 殷から宋まで～

- 主 催：静岡県立美術館、静岡新聞社・SBS静岡放送
- 後 援：中国大使館、(社)日中友好協会、日本中国文化交流協会、(社)日中協会、日本国際貿易促進協会
- 特別協賛：清水銀行、国士舘大学
- 特別協力：中国国家博物館(中国文物交流中心)
- 協 力：日本航空、山九
- 協 賛：JR東海
- 会 期：平成16年4月24日(土)～5月30日(日)
<32日間>
- 夜間開館：5月の毎週土曜日は午後8時まで開館
 (入場は30分前まで)
- 休 館 日：毎週月曜日(ただし5/3月曜は開館、
 5/6木曜休館)
- 会 場：第1～第6展示室

全国各地を巡回する展覧会で、当館が立ちあがり館となった。

私たちの文化のはるかなルーツでもあり、深さと豊かさをたたえた輝かしい中国の古代文化。展覧会では、この中国古代に注目し、殷(BC1600年頃～BC1050年頃)に始まり、周・春秋戦国・秦・漢・三国・晋・南北朝・隋・唐・五代、そして宋時代(960～1279)まで、およそ3000年におよぶ歴代王朝の精華がとりあげられた。各王朝で生み出された青銅器、石器、玉器、陶器など、一級文物(日本でいう国宝)26件を中心に、時代の文化を反映した代表的文物約140点が時代の流れに沿って構成され、中国文化のあけぼのと悠久の時の流れを感じることができるように展観した。

なかでも、華南省永城市芒山梁王墓から出土した漢時代の金縷・銀縷の玉衣は、名品中の名品、まるで生きているかのようにリアルな秦の兵馬俑、等身大もの大きさを誇る唐三彩、戦国時代の青銅製編鐘、殷の三星堆遺跡出土の青銅製縦目仮面など、教科書などでもおなじみの歴史遺産がずらりとならび、実物を目の前にすることのできるまたとない機会となった。

2002年の日中交渉正常化10周年、2003年の日中平和友好条約締結25周年など、近年、日中両国間の文化交流と相互理解への気運はいっそう高まってきていた。展覧会は、そうした時流に応じ、中華人民共和国建国55周年を記念して企画されたもの。悠久の歴史をもつ中国文化に触れ、今後の日中友好関係の発展について、

あらためて見つめ直す絶好の機会となった。

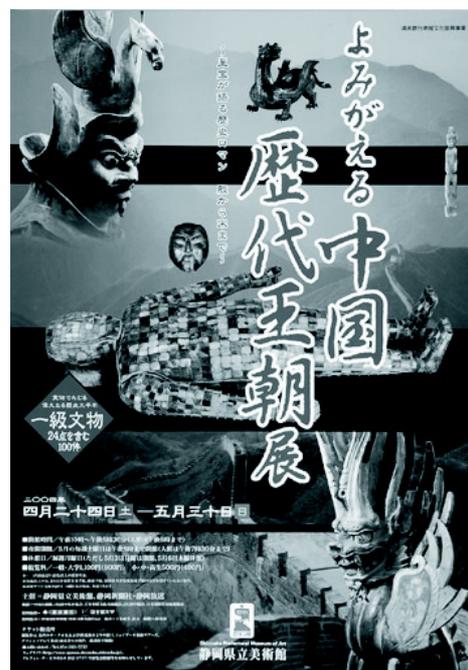
■カタログ

28.0×21cm 150p.

本文

概論 趙古山

日本人にとっての古典古代 川又正智



▲ ポスター



▲ カタログ

文字(漢字)の変遷 藤田忠

図版

第1章 初期王朝期の諸文化—中国文明の創成

殷・周[西周]・春秋時代[東周]・戦国時代

第2章 巨大帝国の誕生

秦・漢[前漢=西漢]・漢[後漢=東漢]

・三国[魏・呉・蜀]

第3章 激動する東アジア—三国から宋まで

隋・唐・宋[北宋]・遼

中国歴史関連年表

中国歴代王朝を生んだ大地

本展出品物の主な紋様一覧

出品リスト

謝辞

■関連記事

朝日新聞 5月8日／全国版夕刊文化芸能欄「一展逸点
／鹿をくわえる虎」出品の青銅製金銀象嵌紋屏風台
座の紹介記事

■関連事業

特別講演会

5月16日(日) 14:00～15:30 講堂

藤田 忠(国士舘大学文学部教授)

「漢字を考える」

■出品目録

p.89参照